

## OPAC と図書館システムの「次」を目指して

農林水産省農林水産技術会議事務局筑波事務所研究情報課  
(農林水産研究情報総合センター)

林 賢紀

近年、既存 OPAC にない機能、例えば蔵書のみならず書影の掲載や論文等との検索、検索結果から発行年、著者名などでの絞込候補の表示（リファイン、ファセット機能）が行えるなど、より高度な検索機能が付加された「次世代 OPAC」が欧米で開発、運用されている。日本でも雑誌記事等各所で紹介され関心や導入へのニーズが高いが、国内でこれらの機能を持つ OPAC を提供するベンダは極めて少ない。今回の発表では、これらの機能を図書館側で開発し導入できないか、また個別対応ではなく一般的な機能とするにはどのようにすればよいかについて触れている。

発表者が所属する農林水産研究情報総合センターにおいては、サービス対象となる研究者が全国に所在することから図書館サービスはネットワーク利用が前提となっており、地域による格差のない「いつでも」「どこでも」研究が協同して行える環境整備を行っている。このサービスの一環として、blog 等で更新通知に利用されている仕組みである RSS(RDF Site Summary)を利用し、新着受入図書・雑誌の配信や各研究所の Web サイトの更新情報、プレスリリースなどを迅速に利用者に通知するサービスを 2003 年より行っており、2006 年には更なる周知と利便性向上のため、新着情報配信のためのポータルサイト MAFFIN News Feeds Center (<http://www.affrc.go.jp/ja/rss/>) を設置している。

これらの取り組みは拡張され、RSS で配信する情報を精緻化し詳細な書誌情報を配信することで文献管理ソフトへのインポートや独自のデータベースの構築など、再利用可能な情報の配信が行われている。具体的には、書誌情報を MARCXML や MODS など XML で記述し配信しているほか、OpenSearch での検索に対応している。

書誌情報の配信だけでなく、同センターでは検索方法の多様化にも取り組んでいる。発表では、簡易な書誌情報へのアクセス方法の提供として <http://library.affrc.go.jp/api/03860507> のように ISSN を URL に記述して利用する方法や、Web ブラウザ付属の検索ツールから OPAC を検索する手法などの事例が紹介された。その効果として、図書館システム付属の OPAC だけでなく、OpenSearch 対応の横断検索サービスや国立国会図書館デジタルアーカイブポータル(PORTA)など、より多くの検索手段を提供し「OPAC のへ入口」を増やすことができたこと、さらには相互貸借が増加したことなどが挙げられた。

このように、OPAC で提供する情報量の精緻化、アクセス手法の多様化を経て、既存の OPAC のインターフェースに依存せず利用者のニーズに合わせたインターフェースを持つ検索サービスの構築に着手している。同センターではメタサーチシステムとして Ex Libris

社の MetaLib を導入しており、さらに拡張機能である X-serve と組み合わせ図書館側で自由に検索インターフェースを構築することができるが、この中に OPAC を情報サービスの一つの部品として取り込んでいる。検索インターフェースについては自館で作成せず、California State University が開発したオープンソースのシステム、xerxes を使用している。発表の後、CiNii など各種の文献データベースや NDL-OPAC など同センターの OPAC を横断的に、また検索対象を意識することなく検索するデモンストレーションが行われた。

これらの事例報告により、OPAC の利用方法を多様化し利用者に合わせた検索サービスが提供できること、また図書館システムのうち業務システムと OPAC とを分離し図書館側での OPAC のインターフェースを自由に構築する可能性が提示された。また発表者からはこのような取り組みを通じて、OPAC を単なる目録検索サービスから書誌データを提供する「データプロバイダ」へ変革することが提案された。